Topos.（トポス）vol.42
常磐大学学報
発行／学校法人 常磐大学　編集／常磐大学　企画広報課
茨城県水戸市見和一丁目430-1 TEL.029-232-2511（代） http://www.tokiwa.ac.jp/
TOKIWA　常磐大学大学院　常磐大学　常磐短期大学　常磐大学高等学校　常磐大学幼稚園
［2006.10.31］

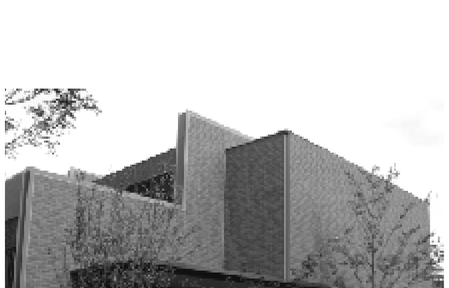
学生の視点でサービス向上を図る

『教学事務機構改編』でサポート体制を構築

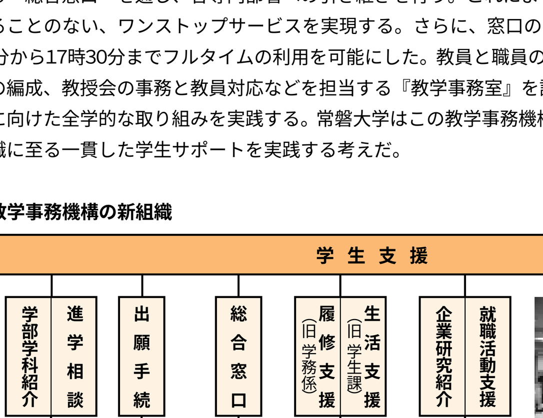
入学から卒業、就職に至るまで一貫したサポートを実践

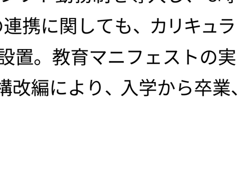
常磐大学は学生に対するサービスの向上を図るとともに、さまざまな教育研究活動を通して社会に通用する力を養う " 教育マニフェスト " の実現に向けて『教学事務機構改編』を実施した。

改編の大きな特徴は、学生の視点を重視した組織の再構築。具体的な内容は、従来の教務部・学生部・就職部といった " 部 " を廃止した『学生支援センター』と『アドミッションセンター』の設置だ。これまでの入試課と広報課を統合したアドミッションセンターは、受験希望の高校生などが訪問しやすいよう正門付近に棟を構え、学生募集を強化する体制を整える。また学生支援センターは、総合窓口、生活支援、履修支援、就職活動支援を担当。学生が抱えるさまざまな課題や相談に対応する " 総合窓口 " を通し、各専門部署への引き継ぎを行う。これにより、学生たちが窓口で待たされることのない、ワンストップサービスを実現する。さらに、窓口のシフト勤務制を導入し、8時30分から17時30分までフルタイムの利用を可能にした。教員と職員の連携に関しても、カリキュラムの編成、教授会の事務と教員対応などを担当する『教学事務室』を設置。教育マニフェストの実現に向けた全学的な取り組みを実践する。常磐大学はこの教学事務機構改編により、入学から卒業、就職に至る一貫した学生サポートを実践する考えだ。


⬆アドミッションセンター

■教学事務機構の新組織




⬆学生支援センター

TOKIWA TOPICS

■『第12回国際被害者学シンポジウム』に参加

被害者支援のための国際的な情報交換を行う

常磐大学から13名の研究者が参加

第12回国際被害者学シンポジウム（The 12 th International Symposium on Victimology）が、2006年 8月20日から25日の6日間、アメリカのフロリダ州オーランドにおいて「被害者学の役割を高める（Enhancing the Mission）」というテーマで開催された。このシンポジウムには、同日程で隣接した会場で開催された全米被害者援助機構（National Organization for Victim Assistance）の参加者も加わり、世界中の国々から被害者学研究、被害者支援に携わる約1200名の研究者、被害者支援関係者が参加し、さまざまな研究発表、意見交換を行い、常磐大学からは、福原眞知子学術振興助成金を得た大学院生 4名を含む計13名の研究者が派遣された。

本シンポジウムは1973年にスタートし、以降 3年に 1度、世界各地で開催される重要な意義を持つ国際会議。被害者の権利を擁護するための改善策や、被害者支援について推し進めるべき点などについて、国際的スタンダードを作るための被害者学研究や情報交換の場であり、今回はフロリダ中央大学において開催された。

常磐大学から参加した13名は、口頭発表、ポスター発表などそれぞれのセッションを通して、海外で活動する被害者学研究者、被害者支援関係者と交流し、それぞれ最新の情報に基づく刺激的なプレゼンテーションと活発な質疑応答が交わされた。

また常磐大学は、2009年に開催される「第13回国際被害者学シンポジウム」の開催ホスト校に決定。開会式や閉会式等でも次回のシンポジウムが常磐大学で開催されることが紹介され、3年後の取り組みにも参考となるシンポジウムであった。

●ワークショップで研究報告する Jaco Barkhuizenさん

参加・報告者メンバー

【教　員】
K.Chockalingam（国際被害者学研究所教授）
J.P.J.Dussich（国際被害者学研究所所長）
G.F.Kirchhoff（国際学部教授）
諸澤　英道（大学院人間科学研究科博士後期課程教授）
長井　進（人間科学部教授）
冨田　信穂（人間科学部教授）

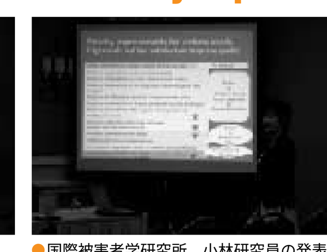
【職員他】
川口　瑞子（国際被害者学研究所研究員）
小林　麻衣子（国際被害者学研究所研究員）
矢作　由美子（大学院被害者学研究科スーパーバイザー）

【学　生】
Jaco Barkhuizen（大学院人間科学研究科博士後期課程 2年）
板垣　喜代子（大学院人間科学研究科博士後期課程 2年）
尾崎　万帆子（大学院被害者学研究科修士課程 2年）
瀧　道子（大学院被害者学研究科修士課程 2年）

（アルファベット順）

The 12th International Symposium on Victimology

●ポスターセッションに参加した板垣さん


●国際被害者学研究所、小林研究員の発表（パネルディスカッション）

●閉会式で、次回は水戸の常磐大学で開催されることが案内された

TOKIWA TOPICS

■『第13回国際被害者学シンポジウム』開催ホスト校に決定

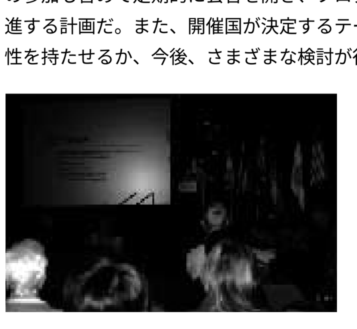
アジアにおける被害者学のリーダーを目指す

世界有数の教育・研究機関として

2009年に開催される『第13回国際被害者学シンポジウム（The 13 th International Symposium on Victimology）』が、常磐大学をホスト校として開催されることとなった。日本での開催は、1982年に第 4回大会が東京・京都で開催されてから実に27年ぶり。この間、犯罪被害者保護法や犯罪被害者等基本法が成立するなど、日本での被害者学への関心も大きく高まってきている。この時期に、常磐大学で国際学会が開催される意義は大きく、関係各機関からの注目が集まっている。

常磐大学は大学・大学院・研究所と、被害者学関連の教育・研究機関を数多く有しており、これは世界的に見ても非常に希なこと。また、世界被害者学会の理事15名中、4名を常磐大学関係者が占めるほど被害者学への取り組みに力を入れている。もちろん、このような特色を持つ常磐大学に対する期待は大きい。そこで 3年後に向けて、世界被害者学会の理事の参加も含めて定期的に会合を開き、プログラムの構築を推進する計画だ。また、開催国が決定するテーマにいかに独自性を持たせるか、今後、さまざまな検討が行われていく。

●第13回シンポジウムのパンフレット（上）第12回シンポジウムの参加証明書（下）


●第12回シンポジウムで、次回開催ホスト校である常磐大学が紹介された

被害者支援のアジアでのネットワークに期待

常磐大学をホスト校として『第13回国際被害者学シンポジウム』が開催されることとなり、大変嬉しく、それと同時に大きな責任を感じています。アジアの国々にはさまざまな歴史的経緯があり、リーダー間での相互理解や協力関係が成立しづらいという背景があります。しかし、被害者支援、被害者学に関しては、是非とも良いネットワークを築き上げたい。そのためには、常磐大学が東南アジアの諸外国と連携し、アジアという大きな領域で相互協力ができる関係を構築する必要があります。それが成功すれば、この大会はアジアにおける被害者支援、被害者学にとって、大きな転機となるのではないかと思います。

そこで重要になるのが、アジア諸国から多くの参加者を募ること。被害者支援が進んでいる国からの参加者はもちろんですが、それだけでは充分ではありません。被害者支援に関する開発途上国からも参加していただき、その国におけるリーダーを育成していくような対策も重要であると感じています。

長井　進 教授
大学院被害者学研究科・人間科学部
国際被害者学研究所
慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻修士課程修了。専門：臨床心理学、被害者学／所属学会：日本心理臨床学会、日本被害者学会、日本犯罪心理学会、日本トラウマティックストレス学会、WSV、アメリカ心理学会 等

Tokiwa Interview ①

求められる『中等教育』とは？

～新たな水戸学の発信拠点として～

西原 春夫 氏（学校法人 常磐大学 顧問）

学校法人常磐大学は、県内初となる中高一貫の６年制『中等教育学校』設置への取り組みを行っている。しかし、まだ問題が残されていることも事実。そこで、中高一貫教育に関する知識と経験が豊富な西原春夫先生に、いま求められている中等教育とはどういうものなのかお話を伺った。

「私は以前から、6･3･3･4制に否定的な立場をとっています。初等教育の６年は、ある意味、相当だと思います。ひとつのことを学び終えた実感が持てる期間だからです。しかし問題は中学と高校の３年。そこには、多くの問題があります」

西原先生は、旧制７年制高校の出身で、７年間を同じ学校で学んできた。その実体験に基づいて、３年間で区切られた期間に疑問を呈する。

「非常に大きな問題点のひとつは、中学、高校、それぞれが、学び終えたという実感を持てないこと。区切りが短すぎて中途半端なんだと思います。もっと重要なことは、15歳という年齢は、人生の中で最も揺れ動く時期であることです。身体は大人になりつつあるが、精神的には子供。そして親から独立する、大切な時期でもあります。ちょうどその時期に、高校を受験しなくちゃならない。試験というのは、いままでの友だちを、全部ライバルにするということ。他人を蹴落とさなければ、合格できませんから。さらに、部活動やサークル活動なども中断されます。私は旧制高校で水泳部のリーダーをしていましたが、中断することなく７年間、家族のように活動することができました。そのときの経験が、現在の自分を作っているという実感があります。私は一貫教育の恩恵を受けて育ってきたので、その長所がよくわかるんです」

それでは、中高一貫教育に求められる教育とは、具体的に何なのだろうか。

「例えば歴史教育を考えてみると、中学、高校、どちらも古代から始まる。そして、どこまで授業で取り上げられるかというと、どちらもルネサンス期まで。つまり、フランス革命以降を充分に学んでない学生が大学に来るんです。我々、法学部の教員からすると、いちばん大事な部分を学んでいない。権利や自由は革命を導いた啓蒙主義から生まれてきたわけですから。これは日本史も同じで、明治維新まで行かない。学習指導要領などの制約もあるでしょうが、是非、６年間で歴史をマスターする教育体系を作っていただきたいです」

これからの学校法人には特色が必要となってくる。最後に、その特色について伺った。

「特色は『時と所』から生まれます。まず、時とは歴史の流れのこと。常磐大学は大学院に、全国唯一の被害者学研究科を作った。またコミュニティ振興学部に地域政策学科を新設し、社会の動きを反映した学問にいち早く取り組んでいる。この、歴史の流れに棹さすことが重要だと思います。そして、所は水戸という街。水戸光圀公が大日本史編纂を行い、その歴史から学ぶ志を継いで『水戸学』が誕生した。水戸学というと尊王攘夷を指すと思うからいま特色が出せないのであって、それはその時代の歴史の流れに棹さした結果にすぎない。水戸学の本質は歴史に学ぶ態度です。そう考えれば、いまはまったく違った思想や学問が誕生することでしょう。学校法人常磐大学はそれに取り組むべきでしょう。常磐大学が、新たな『水戸学』を形成し発信する拠点となることを希望しています」

Profile
にしはら・はるお●1928年東京生まれ。早稲田大学法学部卒、同大学院法学研究科博士課程修了。法学博士。ドイツのマックス・プランク外国・国際刑法研究所に留学。72年から早稲田大学法学部長を経て、82～90年には早稲田大学総長。学校法人国士舘理事長、青少年育成国民会議会長を歴任し、現在、特定非営利活動法人・アジア平和貢献センター理事長を務める。

公共政策フォーラム2006 IN 水戸

林ゼミが日本公共政策学会会長賞を水嶋ゼミは水戸市教育長賞を受賞！

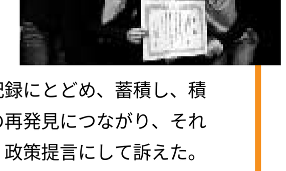
2006年10月 5日から 9日までの 5日間の日程で、第18回全国生涯学習フェスティバルが開催され、茨城県内の各地で様々な生涯学習事業が展開された。

その事業の一環として、「公共政策フォーラム2006 IN 水戸」（主催:公共政策フォーラム2006 IN 水戸実行委員会（日本公共政策学会、水戸市）、全国生涯学習フェスティバル水戸市実行委員会）が10月 6、7日に水戸芸術館ACM劇場で行われた。このシンポジウムの中で「文化活動と連携するまちづくり」をテーマとした「学生による政策コンペ」が開かれ、14グループ（10大学参加）がパワーポイントを用いて発表を行った。審査の結果、人間科学部現代社会学科 林寛一ゼミナールが、最も優れた政策提案をしたグループに贈られる会長賞を受賞、また、コミュニティ振興学部コミュニティ文化学科 水嶋英治ゼミナールが水戸市教育長賞を受賞した。

林ゼミは、「ねばり強い文化の街づくり～納豆文化の継承と発展～」と題し、水戸の特産物である納豆を地域活性化の決め手として活用し、水戸の納豆文化の脱構築と再発見を通じ、市民、企業、行政のネットワークを生かした街づくりを提案した。納豆博覧会の開催など興味深い事業の提案に評価が集まった。

また、水嶋ゼミは、「地域の歴史・文化資源を活かす！～水戸・弘道館デジタルアーカイブの活動を通して～」と題して、水戸の地が誇る文化資産・弘道館をデジタルで記録にとどめ、蓄積し、積極的に公開・活用していくデジタル・アーカイブプロジェクトの活動が、地域の魅力の再発見につながり、それを囲むひとびとの豊かなコミュニケーションが育まれるまちづくりに貢献することを、政策提言にして訴えた。

「弘道館デジタル・アーカイブプロジェクト」は常磐大学の地域貢献事業として、2006年 4月から開始し、3年計画で取り組んでいる。弘道館の建物の外観や内部312種類、600点に及ぶ展示・保存資料を動画や静止画としてデジタル化するため、今年度は、建造物の撮影を中心に進められている。


⬆林ゼミ、⬇水嶋ゼミのメンバー。

【参加グループ】
14グループ10大学　*発表順
■**早稲田大学** 社会科学部 早田ゼミ
■**京都女子大学** 現代社会学部 依田ゼミ
■**茨城大学** 人文学部 斎藤ゼミ
■**静岡文化芸術大学** 文化政策学部 片山ゼミ
■**常磐大学** コミュニティ振興学部 水嶋ゼミ
■**名古屋学院大学** 経済学部 古池ゼミ
■**神戸学院大学** 法学部 窪田ゼミ
■**京都女子大学** 現代社会学部 橋本ゼミ
■**茨城大学** 教育学部 島ゼミ
■**京都大学** 総合人間学部 足立ゼミ
■**北九州市立大学** 法学部 楢原ゼミ
■**早稲田大学** 社会科学部 池田ゼミ
■**中央大学** 総合政策学部 細野ゼミ
■**常磐大学** 人間科学部 林ゼミ

エクステンションセンター

『水戸夕学講座』開講

（みとせきがくこうざ）

～慶應丸の内シティキャンパス定例講演会サテライト配信～

常磐大学エクステンションセンターでは、「大学教育の開放活動」の一つとして、『水戸夕学講座』を開講した。『水戸夕学講座』とは、学校法人慶應義塾の社会人教育機関である慶應丸の内シティキャンパス（慶應MCC）が実施している定例講演会『夕学五十講』をサテライト（衛星）配信を用いて、水戸の地でリアルタイムに受講できる新しいタイプの講演会である。講師は、大学人をはじめ、企業人・文化人・ジャーナリスト等、各分野の第一線で活躍する方々が担当する。2006年度後期の講座は、10月下旬から来年 2月初めまで、計15回にわたり開講される。激変の時代にあって、潮流を理解し深くて厚みのある社会観、人間観を醸成する知的活動力を高める場として、知的リフレッシュの場として、その活用が期待される。

各講座の内容や申込方法等は、エクステンションセンターまで。（TEL.029-232-2852）

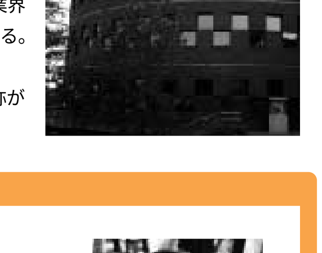
TOKIWA Campus Report キャンパスレポート

学生支援センター　キャリア支援担当から

●2006年度の就職状況について

2006年度の現状については、金融機関、卸・小売、サービス業を中心に既に内定を決めている学生がいる一方、現在も活動中の学生もいる。これから秋採用が本格化するので、学内会社説明会、就職支援サイト、求人票、学生支援センターキャリア支援担当窓口等を積極的に利用、諦めずに就職活動をしてほしい。なお、現在のところ、企業の求人意欲の回復とあいまって学生の内定先は幅広い職種・業種に広まっており、内定状況も昨年の同時期と比べても上回っている。

また、9月からは1・2年生を対象にしたキャリア支援対策の講座等をスタートさせた。具体的には、身近な題材から自分を見つめ直し、将来について少しずつ意識を持ってもらうためのキャリアデザイン講座、本学OBを迎え「大学生活」の失敗談や成功談（経験談）を語っていただき、「大学生活をどう過ごせばよいか」と共に、「新年度に向けての心構え」などを伝えていただくパネルディスカッション、また、これまで3・4年生を対象に、企業の人事担当者を講師としてお迎えしての業界研究講演会を、1・2年生にまで対象を広げて実施する。学生の積極的な参加を期待している。



＊なお、機構改編により今までの就職課は「学生支援センター キャリア支援担当」と名称が変わり、場所も学生ホールの地下１階に移転しました。

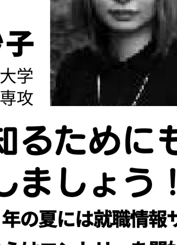
内定者レポート

東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）仙台支社 内定
遠藤　航
人間科学部
人間関係学科・教育学専攻

どんな経験でも活かすそれが成功の秘訣です！

就職活動を始めたきっかけは、就職課（現・キャリア支援担当）主催の『就職支援バスツアー』です。まだ12月だというのに、都内の学生はヤル気まんまん。自分も負けてはいけないと強く感じ、就職情報サイトでエントリーを始めました。絞り込んだ業界は接客関連で、ホテル・旅行代理店・JR東日本。先輩方の『受験報告書』を参考に試験に臨み、全ての業界から内定をいただきました。そして就職を決めたのが、高校時代から憧れていた『JR東日本』です。

就職活動での反省点は、業界研究不足。初めの頃に受験したホテルでは、料飲やブライダルもホテルの重要な業務だと知らずに失敗しました。自動車ディーラーでも、面接でメーカーとディーラーの関係を答えることができなかった。でも、こうした失敗を早い段階で経験していたので、後の面接では業界研究に力を入れ、しっかり受け答えできました。失敗をそのままにせず、力に変えられたことが良かったんだと思います。



東京電力株式会社 内定
髙橋　妙子
短期大学
生活科学科・生活科学専攻

自分の適性を知るためにも積極的に活動しましょう！

私は短大生なので、１年の夏には就職情報サイトに登録し、12月頃からはエントリーを開始しました。暇さえあればパソコンで就職情報を検索し、興味のある企業にはすぐにエントリー。アクセスした企業は30社ぐらいにはなりました。私は基本的に、東京をメインに就職活動を行っていました。その理由は、できるだけ多くの企業を見たかったから。多くの選択肢から、自分に合った企業を選びたかったんです。

最初に就職したいと思っていたのは、アパレル業界。でも、活動を続けるうちに本当にアパレルでいいのか悩み始めました。お話を聞いていると自分は競争社会に適性がないような気がしてきたんです。そんなとき、就職課（現・キャリア支援担当）の方から紹介されたのが『東京電力』。会社説明会でお話を聞くうちに、自分がやりたかったのはこの仕事だと思えてきました。就職活動は、まず会社説明会に参加すること。実際に足を運ぶと、見えなかったことが見えてきますよ！

2005年度財務状況報告

2005年度決算は、5月25日開催の理事会・評議員会で承認された。

貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書の財務三表をみて、全般的には安定した財務状況を維持するとともに、第１号基本金の増額でわかるように、規模の拡大につなげることができた決算内容である。あわせて、累積していた翌年度への消費支出の超過額を減額することができた。

気になる点としては、「学生生徒等納付金収入」の前年比減額と、「教育研究経費」の執行残額の点であり、今後、学生・生徒等の確保と、適正な予算配分・執行について、改善・検討を行いつつ、安定した状態をいかに維持していくかが課題となる。

■貸借対照表　2006年3月31日　（単位：千円）

区分	2005年度末	2004年度末	増減
固定資産	22,929,176	22,939,931	△ 10,755
有形固定資産	20,663,020	20,527,612	135,408
その他の固定資産	2,266,156	2,412,319	△ 146,163
流動資産	7,583,297	6,848,768	734,529
資産の部合計	30,512,473	29,788,699	723,774
固定負債	782,216	785,105	△ 2,889
流動負債	945,579	1,022,460	△ 76,881
負債の部合計	1,727,795	1,807,565	△ 79,770
基本金	28,831,461	28,498,909	332,552
第1号基本金	28,465,349	27,687,450	777,899
第2号基本金	0	446,503	△ 446,503
第3号基本金	1,200	1,200	0
第4号基本金	364,912	363,756	1,156
消費収支差額	△ 46,783	△ 517,775	470,992
翌年度繰越消費支出超過額	△ 46,783	△ 517,775	470,992
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	30,512,473	29,788,699	723,774

■資金収支計算書　2005年4月1日から2006年3月31日まで

収入の部　（単位：千円）

科目	2005年度予算	2005年度決算	差異
学生生徒等納付金収入	4,797,705	4,910,448	△ 112,743
手数料収入	101,384	107,645	△ 6,261
寄付金収入	1,400	1,200	200
補助金収入	910,083	1,042,421	△ 132,338
資産運用収入	181,220	197,728	△ 16,508
事業収入	22,143	84,116	△ 61,973
雑収入	143,207	129,450	13,757
小計	6,157,142	6,473,008	△ 315,866
前受金収入	986,140	869,962	116,178
その他の収入	496,273	583,276	△ 87,003
資金収入調整勘定	△ 968,444	△ 1,141,186	172,742
前年度繰越支払資金	6,711,995	6,711,995	0
収入の部合計	13,383,106	13,497,055	△ 113,949

支出の部

科目		2005年度予算	2005年度決算	差異
人件費支出	給与支出	3,137,348	2,949,434	187,914
	退職金等支出	139,294	138,875	419
教育研究経費支出		1,451,871	1,242,945	208,926
管理経費支出		569,665	468,214	101,451
施設関係支出		830,835	835,011	△ 4,176
設備関係支出		182,619	156,956	25,663
小計		6,311,632	5,791,435	520,197
その他の支出		354,016	354,019	△ 3
予備費		30,000		30,000
資金支出調整勘定		0	△ 75,617	75,617
次年度繰越支払資金		6,687,458	7,427,218	△ 739,760
支出の部合計		13,383,106	13,497,055	△ 113,949

■消費収支計算書　2005年4月1日から2006年3月31日まで

消費収入の部　（単位：千円）

科目	2005年度予算	2005年度決算	差異
学生生徒等納付金	4,797,705	4,910,448	△ 112,743
手数料	101,384	107,645	△ 6,261
寄付金	1,400	7,491	△ 6,091
補助金	910,083	1,042,421	△ 132,338
資産運用収入	181,220	197,728	△ 16,508
事業収入	22,143	84,116	△ 61,973
雑収入	143,207	129,450	13,757
帰属収入合計	6,157,142	6,479,299	△ 322,157
基本金組入額合計	△ 568,763	△ 332,552	△ 236,211
消費収入の部合計	5,588,379	6,146,747	△ 558,368

消費支出の部

科目		2005年度予算	2005年度決算	差異
人件費	給与	3,137,348	2,949,434	187,914
	退職金等	174,861	135,986	38,875
教育研究経費		2,198,056	1,961,181	236,875
管理経費		649,206	567,664	81,542
資産処分差額		0	44,826	△ 44,826
徴収不能引当金繰入額		0	16,664	△ 16,664
予備費		30,000		30,000
消費支出の部合計		6,189,471	5,675,755	513,716
当年度消費収入超過額又は当年度消費支出超過額（△）		△ 601,092	470,992	
前年度繰越消費支出超過額（△）		△ 517,775	△ 517,775	
翌年度繰越消費支出超過額（△）		△ 1,118,867	△ 46,783	

卒業生センター便り

常磐短期大学創立40周年記念ホームカミングデー開催！

2006年、常磐短期大学は創立40周年を迎えました。その記念事業の一環として、全卒業生を対象としたホームカミングデーを11月25日（土）に常磐短期大学見和キャンパスで開催いたします。「卒業生と恩師が母校で集う日」として、記念講演会や各講座では学生時代の時間を懐かしみ、立食パーティーでは再会を喜び合い、交流を深め楽しんで頂けるような企画となっています。皆様のご参加をお待ちしています。

【常磐短期大学創立40周年記念ホームカミングデー】

日時：11月25日（土）10:00～16:30
会場：常磐短期大学見和キャンパス

プログラム
10:00 ● 受　付
10:30 ● 開　会
● 理事長挨拶（15分）
10:45 ● みわの会（常磐短期大学同窓会）総会（30分）
11:15 ● 記念講演会（60分）
テーマ「日常生活にみる諸澤みよの生き方」
常磐短期大学 名誉教授 中原 経子先生
休　憩（15分）
12:30 ● 記念昼食会（120分）
立食パーティー
14:30 ● 記念講座（120分）※ 4講座を並行して開催します
①テーマ「働く日々と暮らしの中で」
常磐短期大学 名誉教授 佐藤 啓子先生
②テーマ「折り紙の楽しみ」
常磐短期大学 元助教授 田中 東亜子先生
③テーマ「くみひも教室」
常磐短期大学 元非常勤講師 多田 牧子先生
④テーマ「徳川家再現料理講座」
常磐短期大学 非常勤講師 根本 悦子先生（2回生）
16:30 ● 閉　会

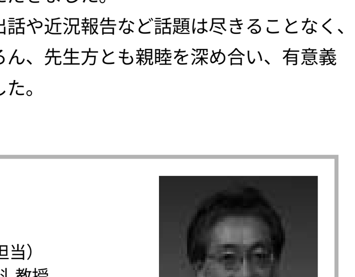
この他、常磐大学では、卒業15年を迎えた人間科学部 5期卒業生を対象としたホームカミングデーを 9月30日（土）に実施し、盛会のうちに終了いたしました。詳細はWebをご覧ください。

卒業生センターでは、このような形で卒業生を支援して参ります。高等学校及び大学院の卒業生の方にも楽しんでいただける企画を検討中です。

（問い合わせ先）
〒310-0036 茨城県水戸市新荘1-7-26
学校法人 常磐大学 卒業生センター
TEL/FAX 029-231-8162　受付時間：平日9:00～17:00

常磐大学同窓会

常磐大学同窓会総会・懇談会開催報告

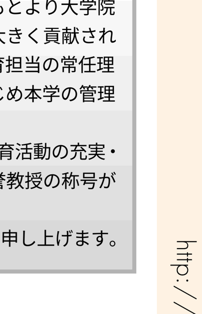


2006年度常磐大学同窓会総会 および 懇談会が、6月10日（土）に三の丸ホテルで開催され、約70名の卒業生が一堂に会しました。

常磐大学・常磐短期大学学長である髙木勇夫名誉会長や常磐大学副学長の柄澤行雄先生にもご出席いただきました。

学生時代の思い出話や近況報告など話題は尽きることなく、卒業生同士はもちろん、先生方とも親睦を深め合い、有意義な時間を過ごしました。

訃　報



常任理事（一貫教育担当）
大学院人間科学研究科 教授
人間科学部 教授
上見 幸司 先生
（常磐大学名誉教授授与）

大学院人間科学研究科・人間科学部 教授 上見 幸司 先生（満58歳）が、9月27日にご逝去されました。

通夜および告別式には、600名を超える参列者が集まり、故人の偉業を偲びつつも早すぎるご逝去を惜しみました。

上見先生は、1988年 4月、人間科学部組織管理学科開設と同時に、本学に就任され、人間科学部はもとより大学院人間科学研究科、被害者学研究科の発展に大きく貢献されました。また、2005年 4月からは、一貫教育担当の常任理事に就任され、卒業生センターの開設をはじめ本学の管理運営にも大変なご尽力をいただきました。

なお、告別式に先立ち、上見先生の研究教育活動の充実・発展への多大なご功績に対し、常磐大学名誉教授の称号が授与されました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

編集後記

キャンパスを吹く風も、すっかり秋らしくなってきました。新しい環境にも慣れ、履修や大学生活に関する課題を発見した方や、就職活動の相談をしたい方も少なくないと思います。今秋より、常磐大学では、皆さんに快適な学生生活を送っていただくため教学事務機構改編を実施しました。サービスが向上した学生支援センターを、活用してください。

Topos. vol.42 常磐大学学報トポス　http://www.tokiwa.ac.jp/